

動物実験に関する現況（平成 25 年度）調査票

東京理科大学

平成 26 年 12 月

5. 実験動物飼養保管施設の現況

| 施設の名称 | 施設管理責任者の 職・氏名 | 実験動物管理者の 職・氏名 | 動物種 (最大飼養頭数) | |
|--------------------|--|---------------------------------------|-----------------|-------|
| | | | 動物種 | 頭数 |
| 野田共同 動物飼育施設 | (野田) 教授 古市貞一 (経験年数：29年) (関連資格：なし) (葛飾) 教授 田代文夫 (経験年数：34年) (関連資格：なし) | (野田) 助教 篠田陽 (葛飾) 助教 秋山弘匡 | マウス | 5,455 |
| | | | ラット | 142 |
| | | | モルモット | 24 |
| | | | ハムスター | 24 |
| | | | ウサギ | 24 |
| 薬学部動物舎 | 教授 深井文雄 (経験年数：32年) (関連資格：なし) | 助教 伊豫田拓也 | マウス・ラット | 6,000 |
| | | | モルモット | 120 |
| | | | ハムスター | 30 |
| | | | ウサギ | 30 |
| 生命医科学研究所 動物実験施設 | 教授 安部 良 (経験年数：37年) (関連資格：なし) | 助教 小川修平 | マウス | 8,000 |

6. 特記事項

本機関には、II-5に記載した野田共同動物飼育施設、薬学部動物舎、生命医科学研究所動物実験施設という3つの実験動物飼養保管施設が、存在する。平成25年度から葛飾キャンパスが開設されたことで、平成25年度現在、野田共同動物施設は野田キャンパスと葛飾キャンパスに2つの飼養保管施設が存在することになっているが、野田共同動物飼育施設(葛飾)は、近い将来、独立して、葛飾動物飼育施設として運営していく予定である。野田キャンパスにある野田共同動物飼育施設(野田)は理工学部、薬学部動物舎は薬学部、生命医科学研究所動物実験施設は生命医科学研究所、葛飾キャンパスにある野田共同動物飼育施設(葛飾)は基礎工学部、の教員・学生が主に利用する等、各施設の主たる利用者(教員・学生)の所属する学部等が異なる。また、生命医科学研究所動物実験施設はマウスのSPF環境下での飼育に特化している一方、野田共同動物飼育施設(野田)はできるだけ多くの動物種の飼育を可能としている。薬学部動物舎は主に薬学部内で使用する動物(但しRI投与動物等は生命医科学研究所動物実験施設で使用)を飼育している。動物種もマウス、ラットの他、モルモット、ウサギの飼育も可能である。また、飼育環境としてコンベンショナルとSPFを選択でき、施設内に小規模な実験室も設けてある。動物施設は、施設ごとの使用規則を定め施設管理責任者(動物実験委員会委員である)と施設運営委員会を置き、動物飼育等に関するものの他、動物実験の実施状況を把握し、実験実施者に適切な指導・助言を行っている。

動物実験計画を審査する動物実験委員会は、全学統一委員会として設置・運営されている。